

研修で
学校が
変わる

特別支援教育主任研修② 特別支援学級担任研修② まとめ 幼保小中連携研修



令和3年8月2日（月）

Web会議による遠隔研修（会場校）

「UDLでつなぐ支援の実際と幼保小中連携」

講師 加藤 典子 氏（文部科学省 特別支援教育調査官）

「一人も置き去りにしない教育」の実現

「合理的配慮の充実」
→「基礎的環境整備」の向上
→UDの考え方を考慮

学びのユニバーサルデザイン（UDL）ガイドライン

原則1 提示のための多様な方法の提供

（学びの“what”/“何を学ぶのか”）

原則2 行動と表出のための多様な方法の提供

（学びの“how”/“どのように学ぶのか”）

原則3 取り組みのための多様な方法の提供

（学びの“why”/“なぜ学ぶのか”）

ICT活用も

各校・園の取組を確認

- ★落ち着いた学ぶことのできる環境づくり
- ★必要な情報が適切に提供される配慮や工夫
- ★多様な教材・教具や支援ツールの提供
- ★努力やがんばりを支えるための配慮や工夫

「障害のある子供の教育支援の手引」

～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

切れ目のない支援体制の構築
個別の教育支援計画等 情報の共有・引継ぎ
幼保小中連携

【研修のねらい】特別支援教育主任

- UDLについて学ぶことで、学級担任への授業づくり・学級づくりの提案や、幼保小中連携におけるコーディネートに活かす。

特別教育主任として学びの質の向上につなげていくために人的環境整備のためのコーディネートを中心に意識していきたい。また、「手立て」をそれぞれの児童生徒の実態に合わせて準備するだけでなく、児童生徒が選べる学び方を準備するということも考えていきたい。

UDLは多様な児童の実態にマッチングさせていくことであり、教師の専門性に求められていることだと学んだ。ICTについても校内で研修し、紹介していただいた資料についても校内で広めていきたい。

【研修のねらい】特別支援学級担任

- UDLについて学ぶことで、一人一人のニーズに応じた教育活動に活かす。

ユニバーサルデザインに向けて、「提示」「行動と表出」「取り組み」のための多様な方法などについて、自分自身が知識を身につけていくこと、また、ICTの効果的な活用についても学んでいきたい。

多様な実態の子どもたちを目の前にして、どれだけの選択肢をもって支援していけるか、意識しておきたい。また、切れ目のない支援をしていくためにいろいろ示していただいた資料を読み、支援計画を見直したい。

明日への想い（マイ・アイデア）

【研修のねらい】各幼稚園・保育園 認定こども園副園長

- UDLについて学ぶことで、子どもの育ちと学びをつなぎ、日頃の幼児教育に取り入れ、幼保小中連携に活かす。

まずUDLについての理解が職員間で共有されていないので、園内研修を行い理解度を高めていきたい。支援が必要な子どもが安心して園生活を送れるように視覚的や聴覚的に様々なメディア等活用していきたい。

まず、今している園の取り組みをUDLの視点で整理し意味付けをする。そうすることで、職員の自信や次への活力につながると思う。また、「一人も置き去りにしない教育の実現」は日々の保育でも大事にしていることなので、一人一人の子どもの実態に合わせて様々な環境整備をし、子ども自身が安心してかつ主体的に活動できるよう、改めて職員間で確認していく。

加藤典子先生に紹介していただいた資料等

- ◎「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）
- ◎「初めての通級による指導を担当する教師のためのガイド」
- ◎子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～
- ◎NISE学びラボ（国立特別支援教育総合研究所）～特別支援教育eラーニング～